

ランピースキン病が福岡県と熊本県で発生!!

これまで国内では発生がなかったランピースキン病が福岡県と熊本県で確認されました。

ランピースキン病とは

【病原体】

- ・ランピースキン病ウイルス

【宿主】

- ・牛、水牛(人への感染はない)

【症状】

- ・皮膚の結節や水腫、発熱、抑うつ、リンパ節の腫大等
- ・ほとんどの牛は感染しても徐々に回復

【伝播方式】

- ・ベクター(蚊、ハエ、ダニ等)によって機械的に伝播
- ・汚染された飼料、水、器具を介して感染

【予防と制御】

- ・感染地域の牛の移動制限、症状のある牛の淘汰、ワクチン接種

【国内での発生の経過】

- ・11月6日 福岡県の2農場で国内初の発生を確認
- ・11月9日 熊本県の1農場で発生を確認
- ・12月9日現在、福岡県の18農場(乳用16農場、乳用・肉用1農場、肉用1農場)、熊本県の2農場(乳用1農場、乳用・肉用1農場)で発生を確認



- 11月21日以降、福岡県の発生農場周辺(20km)においてワクチン接種が行われています。
- 現在、福岡県の牛※は、米国向け輸出牛認定施設(京都府内では京都市中央卸売市場第二市場)への出荷ができませんのでご注意ください。

※ワクチン接種開始以降(11/21)に福岡県において飼養歴がある牛